

# 三好市プチガイド養成講座 2020

## 三好市とその周辺の歴史文化 ～ 井川町 ～

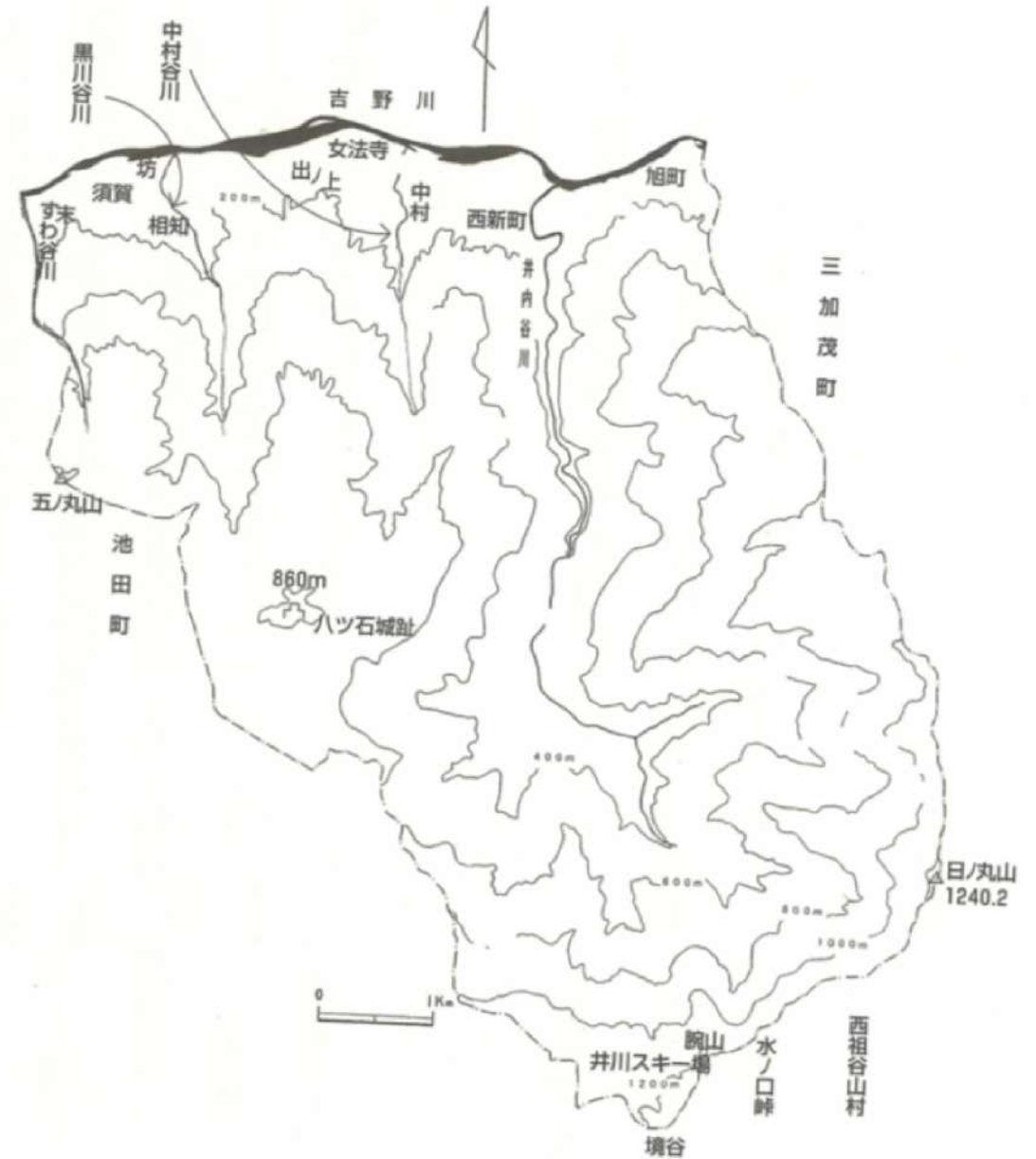




# 井川町の概要

昭和34年4月1日に吉野川沿いに位置する辻町と四国山地側にある井内谷村が合併して、井川町が誕生した。

その後、平成18年3月1日に三野町、池田町、山城町、東祖谷山村、西祖谷山村と合併して三好市となり、現在の三好市井川町となる。井川町の南側には腕山（1332m）がそびえており、池田町と西祖谷山村と面している。北側は吉野川に面している。



今回は、井川町の中でも商業地として栄えた辻町に焦点を当てて紹介する。

## 辻町の概要

### 中世～近世にかけての辻町

辻町は吉野川流域の中でも平地面積がさほど広い地域ではない。しかしながら、この狭い土地が商業地として栄えた歴史がある。それは、四国山地側にある井内谷や祖谷山の山間にある村々と、吉野川流域にある平地の村々を結びつける伊予街道や祖谷街道があり、交通の要衝であったからである。昔は祖谷へ行く道の入り口だった。



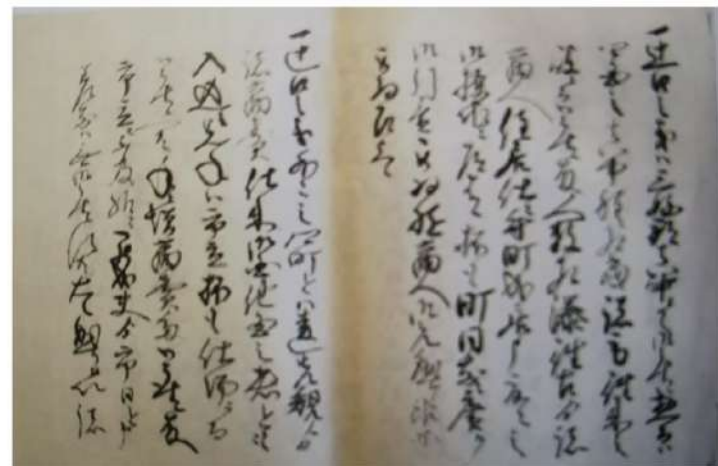
今回は、井川町の中でも商業地として栄えた辻町に焦点を当てて紹介する。

## 辻町のまちの歴史

### 中世～近世にかけての辻町

そのため、辻町には古くから市（いち）が開設されていた。

享保9（1724）年、<sup>しちゅう</sup>市中（徳島の城下）と郷町（西部では脇町・池田）の外は、商売を差し止められた商人が幕府へ商売再開の許しを願った嘆願書が残っている。



古郷家文書

「辻口は他の郷町と違って古くから諸商売が行われてきた。祖谷山で生産した稼ぎ物は大方辻口で売り払い、諸品と引き換えるので百姓共の生活が成り立っている。辻口は大まかに言えば四国の真ん中ほどに位置し、諸方への道が通じ、往来の分岐点になっている。昔から多くの人が集まり、諸商人が住居し町になっている。

度々の御検地でも道幅も町と同じように広くとって下さっている。商人たちは見懸銀（税金）を納めている。辻口諸商人たちは名田（所有の田畑）を少しも所有していないので、諸商売を差し止められては外に渡世の道がなく大変困ってしまう」

他郷、他国から来住した商人が多くなり、辻町のまちが発展していった



# たばこ産業で栄えた辻町を案内

## 辻の町歩きガイド

### 辻の町歩きガイド案内マップ



国土地理院 地理院タイル (標準地図) 上に一部加筆

刻みたばこ産業で栄えた辻町を中心に案内しているガイド組織。

今回は、辻の町歩きガイドのコースの中で**代表的なポイント**を案内します！

- ① 辻の浜・辻の渡し跡
- ② 美濃田大橋
- ③ 教育基金石碑 (辻小学校内)
- ④ 今宮神社
- ⑤ 蓬菜橋
- ⑥ 水力発電所 (跡)
- ⑦ 祖谷街道 (入口)・美しい石垣の道
- ⑧ 芳水酒造



辻のまち歩きガイドの風景 (ポイント⑦) 辻のまち歩きガイドの風景 (ポイント⑤)

# 辻の浜・辻の渡し跡



辻の浜 (川港)



辻の渡し場

- 江戸時代から対象初め頃まで、辻の浜から徳島を経て、はるか北海道まで刻みたばこは運ばれた
- 吉野川の対岸へ渡る「辻の渡し」は、美濃田大橋が開通する昭和 34 年まで活用されていた
- 辻の浜は、辻の玄関口として大正初め頃まで大いに賑わった。しかし、大正 3 年 (1914) の鉄道の開通に伴い、物資の輸送手段が陸路へ移り変わった。そのため、下流へ行く「港」としての役割は少しずつ衰退していった...



美濃田大橋開通式と最終の渡し船 (昭和34年) 「1959」



# 美濃田大橋から望む美濃田の淵



美濃田の淵の景観美



辻の横臥褶曲

- 美濃田の淵の景観美を作ったポイントは、「吉野川の流れ」と「岩のかたさ」。昔吉野川は、現在の位置よりももっと北側（讃岐山脈の麓）を流れていた。讃岐山脈の隆起によって吉野川は南側に張り出していった
- 美濃田の淵は地下十数 km のところで圧力を受けてできた「結晶片岩」で、その中でも比較的硬い緑色片岩から作られている。そのため、硬い緑色片岩が吉野川によって侵食されたことによる造形美を堪能できる

- 美濃田大橋から東側を望むと、兩岸に結晶片岩からなる岩場が見られる。よく観察すると、右岸と左岸との地層の向きが異なる様子を見ることができる（右上写真）。ここは地層が大きく曲がって「横に寝そべったような形（横臥した形）」となった箇所。しかし川の水によって侵食されたため、現在は兩岸にほんの少し見られるだけになっている

# 教育基金石碑（辻小学校内）



3億円の教育基金



- 江戸時代から明治30年代までの約120年間にわたり、辻は刻みたばこ産業で繁栄した
- 刻みたばこ業者の繁栄の中、「教育こそが産業の発展の基である」と刻みたばこ業者67名が当時の1万円（現在の金額に換算すると約3億円）を教育基金として寄付した

# 今宮神社のクスノキ・辻の町並み展望



今宮神社境内にあるクスノキ



- 今宮神社の境内から辻の町の方を見ると、古い町並みと新しい町並みの違いが屋根瓦でわかる。古い屋根瓦は黒く、ツヤがないのが特徴。また、辻のとおりが曲がっている様子もよくわかる



今宮神社から眺望する辻のまちなみ

# 今宮神社



今宮神社の拝殿



本殿

神門

瑞垣

平成 28 年 8 月に

本殿、拝殿、神門、瑞垣（みずがき）が国指定登録有形文化財に

- 創建は 1578 年。今の神殿は、大正 4 年（1915）に落成、翌年 1 月に上棟式が行われた。今の神殿は刻み煙草業が専売に移行された後に国からの補償金を受けた刻み煙草業者の寄進によって建てられたもの

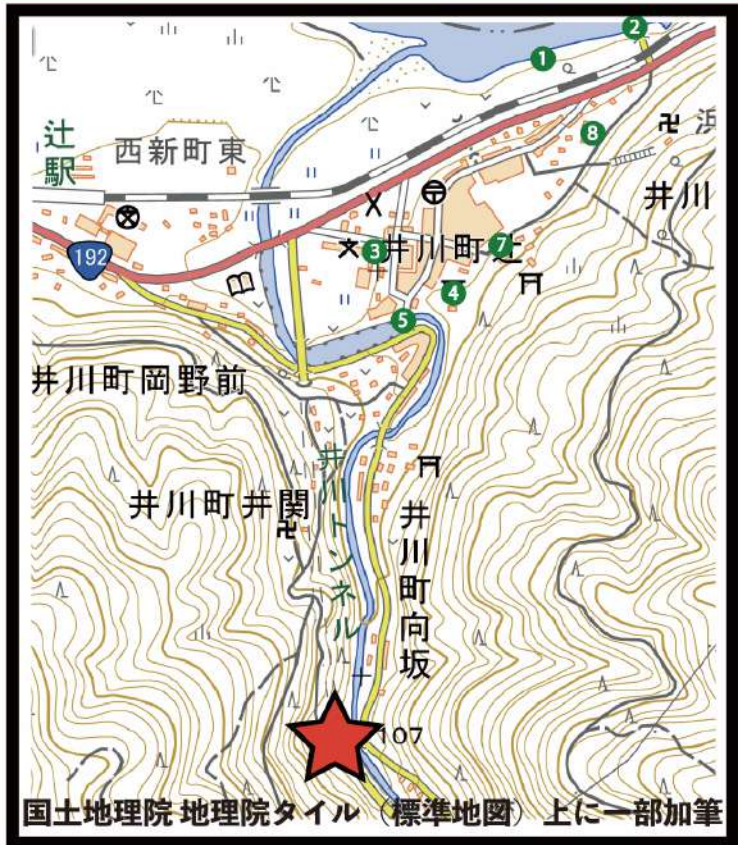
- 地元では戎様とも呼ばれており、毎年 1 月 10 日に「戎福投げ」が開かれる。昔の福投げ 1 等は牛 1 頭が引き換えられるほどの賑わいだった。現在の 1 等は米 20kg である。地域のコミュニケーションの場でもあり、辻の人々ととてもゆかりの深い神社である
- 能舞台のような拝殿は、米などを奉納するために建てられた。実際には、地元の氏子たちが集まって祭祀の相談をしたり、句会をしたりなどの活用がなされていた

# 蓬莱 (ほうらい) 橋



- 「露口」というエリアにあった丸太橋が明治初期に木造の高架橋になり、昭和初期に金属製になった。呼び名も当初は「露口橋」だったが、「ついでちばし」、「辻口橋」へと変化し、最終的に現在の名前「蓬莱 (ほうらい) 橋」になった
- 蓬莱橋は道標を兼ねていた。橋のたもとには「池田へ七、一一五軒 (7.115km)」という銘がある

# 水力発電所



水力発電所

- 明治 41 年 (1908) に創設された徳島県最初の水力発電所
- 刻み煙草業者が 7 万円 (現 20 億円) の資金を出し合い創設
- 電力は 100kW 程度。辻や池田の町の 629 戸に初めて電灯が灯る
- 大正 3 年 (1914) に四国水力電気株式会社 (現在の四国電力) に買収された
- 現在は、水力発電所があった場所に看板が残されているのみである

# 祖谷街道（祖谷への道）・美しい石垣の道



## 祖谷街道

- 今宮神社の裏（東）側に、井内や祖谷へつながる祖谷街道がある。葉煙草を背負ったり、荷車（猫車）に乗せたりして、山間の人たちが通ってきた道。祖谷から辻まで3里（約12km）の山道を1日係で運搬していた。

## 美しい石垣

- 辻の町は平地の面積が狭く、傾斜地を有効に使うために築かれた石垣が、辻の町の特徴の一つとなっている
- 石垣は、吉野川と井内谷川に接している辻の町を水害から守るためのものでもあった

石垣に使用されている岩石は四国山地側で取れる「結晶片岩」。地下十数kmで圧力を受けてできた岩石で、桃色、緑色、青色などの様々な色を呈している。一定方向に剥がれる性質がある

# 芳水酒造



地酒には、吉野川の伏流水が使用されている。池田町から下流の吉野川流域では、ところどころに川が運搬・堆積してできた河成段丘がある。このような地では、川の水が伏流しやすいのが特徴。



- 大正2(1913)年、初代・馬場儀太郎が創業して以来、百年以上続いている徳島県内でも有数の酒造会社。刻み煙草業から転業し、現在に至る
- 「芳水」という酒銘は、辻町の全盛期に景勝地である美濃田の淵に船を浮かべ酒を酌み交わしながら漢詩を読む、というような風流な遊びが行われており、その詩の中で吉野川のことを「芳水(よしのみず)」や「芳乃川(よしのがわ)」と詠まれていたことにちなんで名付けられたものである
- 最近では、吟醸酒、本醸造酒、純米酒などの様々な種類の日本酒を商品化している。また季節限定酒の開発にも力を入れている。平成12年から毎年2月に三好市で行われている「四国酒まつり」では県内外から多くの日本酒愛好家らがこの蔵にも訪れている



# 辻にある国指定の登録有形文化財

平成 28 年 8 月登録 3 件

- 今宮神社本殿、今宮神社拝殿、今宮神社神門及び瑞垣

平成 29 年 10 月登録 18 件

- 島尾家住宅店舗兼主屋、島尾家住宅離れ
- 曾我部家住宅主屋及び納屋、曾我部家住宅蔵、曾我部家住宅長屋門
- 立川家住宅主屋、立川家住宅離れ、立川家住宅内蔵、立川家住宅蔵
- 三船家住宅主屋、三船家住宅蔵
- 向井家住宅主屋
- 山下家住宅主屋、山下家住宅味噌蔵、山下家住宅米蔵、山下家住宅表門、山下家住宅北塀、山下家住宅別邸



立川家住宅は、煙草産業隆盛期の辻町の豪商の住まいを今に伝えると同時に往時の町並みを残す重要な建物の一つとして、歴史的景観に寄与している貴重な建物である。



山下家は半藩政期の文政年間より雑貨商を営んでいた